



## 「青春ってすごく密なので…」だからこそ、大切な時！

41日間の夏休みも終わり、昨日から前期後半がスタートしました。夏休みにリフレッシュできた半面、夜更かしや朝寝坊をしてしまい、普段の登校日とは睡眠時間がずれてしまった生徒も多いのではないのでしょうか。そのようなずれを「社会的時差ぼけ」と呼ぶようですが、少しずつ日常の生活リズムを取り戻してもらえたらと思います。

また、新型コロナウイルスの感染状況は、全国的に「第7波」ともいわれる拡大傾向が続き、高止まりしている状況です。昨年度同様、学校が再開することで今後さらに事態が深刻化するのではないかと懸念されています。このような状況下において生徒の安全・安心を確保して教育活動を継続していくためには教職員はもちろん、生徒一人ひとり、そして保護者の皆様が危機感を共有し、感染対策を徹底していくことが不可欠です。引き続き、ご理解・ご協力よろしくお願い致します。

さて、夏の甲子園では宮城県代表の仙台育英高校が104回目の大会にして初めて東北に優勝旗をもたらしました。そして、その優勝監督がインタビューで発した言葉が話題になっています。

入学どころか、たぶんおそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。高校生活ってというのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんです。青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動してても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生みんなが本当にやってくれて。

私もこのインタビューを聴いて、いろいろな意味で「素晴らしいなあ」と感じました。なぜなら、『密』と言えば、現在のコロナ禍の中では人が密集する望ましくない状態を言う時に使います。しかし、本来は『連絡を密にする』とか、詰まった状態、途切れない状態を指すときに使います。そして、今回はこれが凝縮された状態という意味に使われたわけです。今までであれば、多感な学生時代には夢中になって何かに打ち込み、達成感や挫折感を味わうなど、心に残るような出来事が毎日のように訪れました。そうした体験や感情を仲間や家族と共有することで自尊感情が育まれ、大人へと成長することができたのではないのでしょうか。しかし、コロナ禍の学校においては、感染拡大防止のため、行事や部活動等の喜怒哀楽の感情を伴う教育活動が制限され、精神的に成長する機会が奪われている現状です。この監督の言葉は、そのような状況でも多くの子どもたちは懸命に努力していることを改めてわれわれ大人に気づかせてくれるようなメッセージだったのではないのでしょうか。今後の感染状況にもよりますが、子どもたちが青春時代を振り返ったときに『疎』ではなく、良い意味で『密』だったと感じられるように、本校でも行事や部活動等の教育活動を充実させていけたらと考えています。（現地点では文化発表会も合唱祭も予定どおり実施致します）

また、仙台育英高校の須江監督においては言葉の力だけではなく、東北勢初の優勝という偉業を成し遂げた監督としての手腕についても学ぶことが多く感じました。須江監督の好きな言葉は「人生は敗者復活戦」だそうです。母校でもある仙台育英高校野球部時代には選手を諦め、自ら学生コーチという裏方に転向したそうです。そうした経験からメンバー選考においても、選手が納得するようにデータという目に見える形で結果を示した上で、理由を可能な限り説明するそうです。だから選手からの信頼も厚くなります。選手として活躍できなかったことで終わりにするのではなく、その経験を活かす。そんな須江監督の前向きな生き方が今回の偉業につながったのではないかと思います。

以前の学校便りでも述べさせていただきましたが、「目の前の結果がすべてと考えるのではな

く、そのプロセスを大切にすることが、今後の成長につながる」と思います。本校でも“プロセスを大切にすること”をさまざまな教育活動を通して子どもたちに伝えていけたらと考えています。

## 中3女子、刺傷事件で考えること・・・

8月20日午後7時半ごろ、東京都渋谷区の路上で、母親と娘が包丁で切りつけられ、埼玉県戸田市に住む中学3年の15歳の女子生徒が殺人未遂の疑いで逮捕されるという痛ましい事件が起きました。調べに対し「死刑になりたいと思って、たまたま路上で見つけた親子をナイフで刺した」などと供述しているようです。

私はこの事件を知ったときにとても気になったのが、起きた時期とその原因です。夏休み前に保護者の皆様にはお知らせしたとおり、8月末から9月上旬にかけて中高生の自殺が多くなるというデータがあります。事件を起こした女子生徒の母親は「娘は弟との扱いの差や、私那不登校や受験勉強について責めたことに不満があったのかもしれない」と原因について話しているようです。また、彼女が学校に行かなくなったのは、コロナが猛威を振るい始めた時期と重なることから、ある精神科医は「家族で顔をつきあわせる時間が増えて、不満が蓄積していったのかもしれない。一般的に中学生は、反抗期で愛情欲求も強い、難しい時期です。親としてはわが子に対して、過干渉に気をつけながら、無条件の愛情を示し続けるしかありません。何があっても私はあなたを守る、というメッセージを送り続けるべきです」と語っています。最近では新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多くの子どもたちが強いストレスや孤独感を感じていると言われています。夏休み明け、学校でも子どもたちの様子には十分注意しながら、丁寧に対応していきたいと思いますが、ご家庭でもお子様の様子について、できる限り注意深く見守っていただければ幸いです。

## 9月1日は「防災の日」～関東大震災から来年で100年～

本日9月1日は「防災の日」です。災害に対して平時の備えを確認する日として、昭和35年に制定されました。来年は1923年に発生した関東大震災から100年の節目を迎えます。本校でもこの機会にこれまでの防災訓練等を見直し、より現実的かつ効果的な防災教育を推進してまいります。例えば、これまでの防災訓練というと、事前に訓練を行う時間を決め、全校放送で地震等が発生したことを伝え、教師の指示のもと、整然と行動し、いかにすばやく校庭に避難できるかを指すものがほとんどでした。しかし、実際、災害はいつ起こるかわかりません。登下校中や休み時間に起こる可能性もあります。また、地震によって停電が起き、放送機器が使えなかったり、けが人が出ることも予想されます。さらに余震が起こる可能性もあり、校庭に出ることが必ずしも安全とも限りません。本日、6校時の学活の時間では各クラスで『防災ケースワーク』を実施し、それぞれの場面ではどんな行動を取るべきなのか、班ごとに考え、実践してもらいました。今後でもより現実的な防災訓練になるよう改善を図ってまいりますので、ご家庭でも今一度、災害が起きたときの約束事などをご確認いただければ幸いです。今こそ“いのちを守る”行動が求められています。

## 暑い夏、部活動においても“熱い”夏でした！

夏休み中も運動部の中には湘南地区大会、県大会と勝ち進み、活躍した選手が数多くいました。陸上競技部も8/24、25に県立スポーツセンターで市内陸上が開催され、ベストを尽くしていました。また、運動部だけではなく、文化部もさまざまな大会に参加して素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。結果は次のとおりです。

- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| ○野球部：関東少年大会県予選ベスト8               | ○ソフトボール部：湘南地区大会優勝 県大会3位    |
| ○ソフトテニス部：男子団体 湘南地区大会ベスト4 県大会初戦惜敗 | 女子団体 湘南地区大会初戦惜敗            |
| ○バスケ部：男子 湘南地区大会優勝 県大会ベスト8        | 女子 湘南地区大会3位 県大会初戦惜敗        |
| ○剣道部：湘南地区大会 男子団体リーグ戦惜敗           | 女子団体6位                     |
| ○バレーボール部：湘南地区大会 男子ベスト16          | 女子ベスト16                    |
| ○卓球部：湘南地区大会 男子個人ベスト6             | 女子団体 2回戦惜敗                 |
| ○陸上部：市内陸上 共通男子400m 2位            | 1年男子 1500m 2位              |
|                                  | 共通女子走り高跳び 2位               |
| ○科学部 ゴム動力飛行体大会参加                 |                            |
| ○吹奏楽部 湘南吹奏楽コンクール 銅賞              | ○合唱部 NHK全国学校音楽コンクール県大会 奨励賞 |

